

地域の子どもたちの健やかな成長を願って

# けんもり 特別支援教育だより

岡山県健康の森学園  
支援学校

編集  
教育支援係

平成26年10月9日

## けんもり支援センター開設にあたって

皆様方には、平素から本校教育について多大な御支援を賜り、誠にありがとうございます。今年度も、学園・学校の行事や公開講座、さまざまな交流等に御参加・御協力いただいていることに心から感謝申し上げます。

本校は、平成3年の健康の森学園開園以来、知的障害のある児童生徒の自立と社会参加を目指してさまざまな取組を進めてきています。平成19年度には特別支援教育がスタートし、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育と地域の特別支援教育のセンター的役割の充実を図ってきました。

近年のインクルーシブ教育システム構築に向けた動きの中で、備北地域の特別支援教育の充実のために、本校の果たすべき役割が増大してきていると考えています。そのため今年度は、地域の方々に本校の取組について理解を深めていただき、本校と地域の方々との一層の連携が進むよう、「地域との連携」や「地域への情報発信」にも力を入れてきました。

さて、このたび、本校では、本校のセンター的機能を発揮しやすくするため、「けんもり支援センター」を設置しました。

このセンターは、これまで地域の方々や関係機関等からの派遣要請や相談、問い合わせ等に本校の各担当係が対応してきたことに、一つの窓口で組織的に対応するとともに、その機能強化を図るものです。内容はこれまでと同様に、「相談・研修支援」「地域連携・地域支援」「就業・生活支援」「サポートボランティア」等、本校ができる内容を想定していますが、さらに対応できることを増やしていきたいと考えています。

今後、各学校等においても、指導・支援の一層の充実や合理的配慮の在り方など、特別支援教育の充実に向けたさまざまな取組が必要になると考えます。また、障害のある児童生徒の卒業後までを見通した支援体制づくりの中で、専門機関や就労等に関する幅広い情報が必要となることもあります。本校としても、地域のニーズに応じた取組の一層の推進を図りたいと考えています。これまで同様、「専門指導員派遣事業」の活用や見学、相談、情報提供など、当センターの積極的な御活用、気軽な御相談をお願いいたします。



校長 黒山 靖弘



## 岡山県健康の森学園支援学校

### けんもり支援センター

今年度2学期から、学校内に『けんもり支援センター』を開設しました。

『けんもり支援センター』では、「子どもの学習や行動、生活面で気がかりなことがある」「授業づくりや（児童生徒の）個に応じた指導の仕方について学びたい」「支援学校での学習や生活の様子を知りたい」「ボランティア活動がしたい」「卒業後の相談をしたい」など相談や要請に応じて助言及び直接的または間接的な援助などを行います。

助言及び援助を行う内容については、以下のとおりです。

#### 相談・研修支援

保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、家庭からの相談に応じます。研修会の開催や校内研修などへ講師派遣を行います。「専門指導員派遣事業」を御活用ください。

#### 就業・生活支援

在校生や卒業生からの相談に応じます。また、企業や事業所からの相談に応じます。必要に応じて、関係機関と連携し、問題の解決につなげます。

#### 地域連携・地域支援

地域主催の各行事への連携・協力の調整などを行います。地域へ、「学校だより」やホームページ、ブログ、「大地育人」（研究のまとめ）などで情報発信をします。

#### サポートボランティア

学園支援ボランティアの募集、登録、管理をします。学生ボランティアの育成を行います。

#### 相談・要請の仕方

- 1 電話やメール、ファックスにて相談があることやボランティア希望、講師の要請などを『けんもり支援センター』担当者にお知らせください。
  - 2 後ほど「相談・研修支援」担当者や「就業・生活支援」担当者などより連絡いたします。
- ※ 電話の受付時間 平日10:00～16:00  
※ 個人情報、厳守します。御安心ください。

岡山県健康の森学園支援学校

【担当者】

#### けんもり支援センター

〒718-0313

岡山県哲多町大野 2034-5

TEL: 0867-96-2995

FAX: 0867-96-2998

E-mail: kenmori@pref.okayama.jp (けんもり支援センター専用アドレス)



副校長 長濱 (ながはま)



主幹教諭 國米 (こくまい)

# 話すことが難しい（場面緘黙）子のサポート入門

## 1 はじめに

「場面緘黙のある児童について校内研修をしてほしい。」という学校からの依頼をきっかけに、緘黙について学ぶ機会を得ました。本稿では、場面緘黙についてまとめた資料の中から抜粋して場面緘黙とそのサポートについて記述します。

## 2 場面緘黙とは

医学的診断では、「選択性緘黙」といい、文部科学省が定める障害区分では、自閉症・情緒障害に分類されます。

家では話すことができるのに、家族以外、特に集団の場で話すことができない状態が1ヶ月以上続く場合に場面緘黙と診断します。すべての場面で話せない状態を全緘黙といい、全く動かなくなる場合は、緘動と言います。

発生率は、0.2～0.7%で、やや女児に多いようです。多くは、3～4歳（集団デビューの時期）で発症しますが、ごく希なケースとして小学校や中学校以降にいじめや人前で大恥をかくような体験がきっかけで発症する場合があります。

次のような過程をたどって場面緘黙になるのではないかと考えられています。

- おとなしく、繊細な気持ちを表現することが苦手な子供に起こりやすい傾向がある。
- このような傾向をもつ子供が、保育園や幼稚園などの大きな集団に入ると不安が急激に高まる（社会不安）。
- 社会不安が強い子の中には、保育園や幼稚園で話そうとしても集団の場では話すことができなくなる。
- 話さないことで不安が解消されるため、緘黙という行動が長期化する。

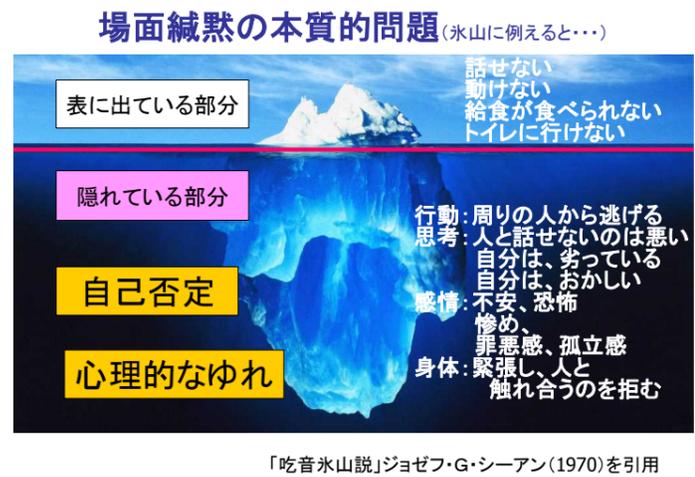
場面緘黙になる原因はまだ明確になってはいませんが、脳内にある扁桃体（身の回りにある危険を察知し、防衛する機能をつかさどる重要な部位）の防衛反応ではないか（Dr エリザ・シポンブラム アメリカ）という説もあります。

## 3 場面緘黙の本質的な問題

場面緘黙の本質的な問題は、表面的に見える「話せない」ではなく、隠れている部分にあるといえます。これらのことを「吃音氷山説」（ジョゼフ・G・シーアン 1970）を引用して表現すると図のように表すことができます。

以前場面緘黙だった成人にその当時の様子を尋ねると、「常に舞台の上に立っている感じ」「喉がつかまるような感じ」「声帯が麻痺したような感じ」

「頭が真っ白で、言葉が出てこない」のように、他の人なら少し緊張する程度だったり、楽しいと思えるような場面であつたりしても、しゃべることを要求されると想像を絶するような不安や恐怖を感じていたことが伺えます。



## 4 場面緘黙の経過と予後

場面緘黙の経過と予後は、以下のようなことが言えます。

- 場面緘黙の状態に早く気づいて周囲の人たちが適切な関わり方をすると、早く話すことができるようになる。
- 大人になると話ができるようになることが多い。
- 人がいるところで話すことができるようになって、人と接する場面では不安が強く、悩み、自信を失ったり、人が多く集まる所を避けたりすることが多い。

## 5 場面緘黙のある子へのサポート

### (1) 生活面へのサポートについて

- 子供に話しかける。
- 子供が答えやすい質問の形にする。
- 教職員間の共通理解をする。（緘黙に関する基礎知識の共有）
- 保護者との情報交換をする。

### (2) 学習面へのサポートについて

- 言葉以外の表現方法を工夫する。
- 班の代表が読む、教師の机まで来て言うなど発表の仕方を工夫する。
- 先回りの配慮はしない（どういう形なら活動・参加できるか本人に確かめる）。

### (3) その他

「どうして〇〇さんは、話さないの？」など周りの児童生徒が尋ねてきた時の答え方などについて考え、教職員で共通理解をする。

## 6 大村はま先生の実践から

「日本の教師に伝えたいこと」（大村はま著 筑摩書房）の中に、場面緘黙だった生徒に関する記述があります。その生徒は、大村先生がある授業の中でその生徒に与えた役割を全うすることができたことがきっかけで中学校卒業後話をするようになることができました。後にその生徒は、「緊張して、口はきかなかつたけれど、人の役に立つかけがえのない位置を与えられて、自信がついて、何かあの日にパッと心が開いたような気がした」と語ったとあります。

話す話さないに関わらず自分がしなければいけないことを果たし、その事から誰かの役に立つ（他者貢献）経験を積んだことが、その後の人生を大きく変えたようです。

## 7 おわりに

出現率から計算するとどの学校園にも1名以上の場面緘黙の子供がいると考えられます。「話すことができない」ということに注目するのではなく、その児童生徒の学びと育ちを考えることで、多くの場面緘黙のある児童生徒が生き生きと生活できるようになると考えられます。（文責 光島由忠）

## 参考文献

- 「なっちゃんの声」 はやし みこ著 学苑社
- 「どうして声が出ないの」 はやし みこ著 学苑社
- 「場面緘黙Q&A」 かんもくネット著 学苑社
- 「ことば No.265」 NPO法人全国ことばをはぐくむ会
- 「日本の教師に伝えたいこと」 大村はま著 筑摩書房